公益財団法人中野区教育振興会　　2024年(令和6年)6月6日(木)

通算第２３０回

２０２４年度（令和６年度）第１回史跡めぐり

山梨県甲府市及び甲州市めぐり

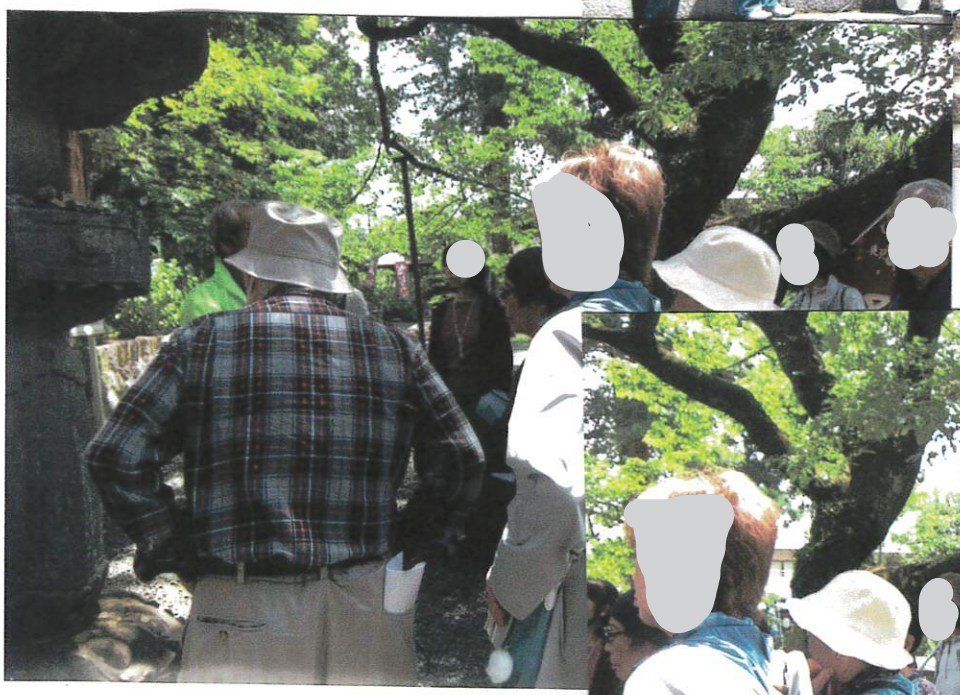
◎恵林寺（えりんじ）

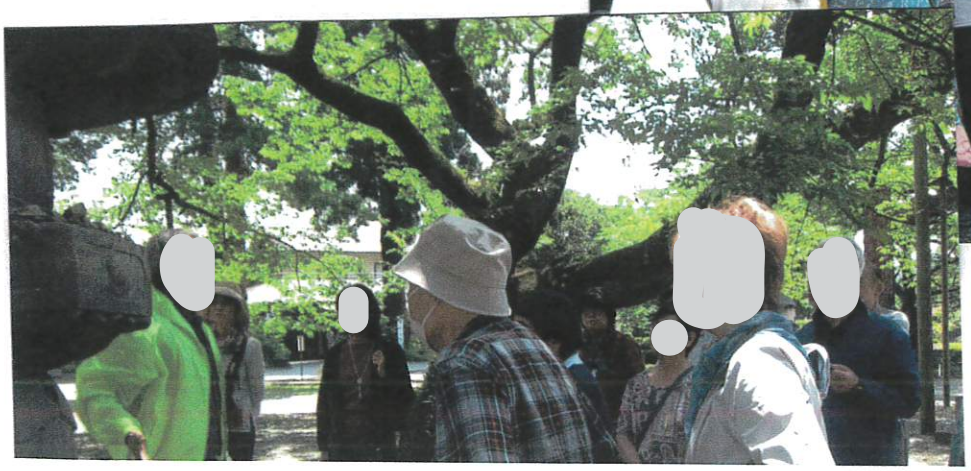
赤門の北には悲劇の舞台となった三門があります。1582年、武田氏を滅ぼした織田信長の軍勢は、僧・俗を問わず恵林寺にとどまっていた全員を三門に押し込めて火を放ち、百名以上の人々が犠牲になりました。
この時、燃えさかる三門の上で、住職であった快川国師（かいせんこくし）が唱えたとされる遺偈（ゆいげ）が、有名な「安禅不必須山水（あんぜんかならずしもさんすいをもちいず）
　　滅却心頭火自涼（しんとうめっきゃくすればひもおのずからすずし）」です。

開山堂

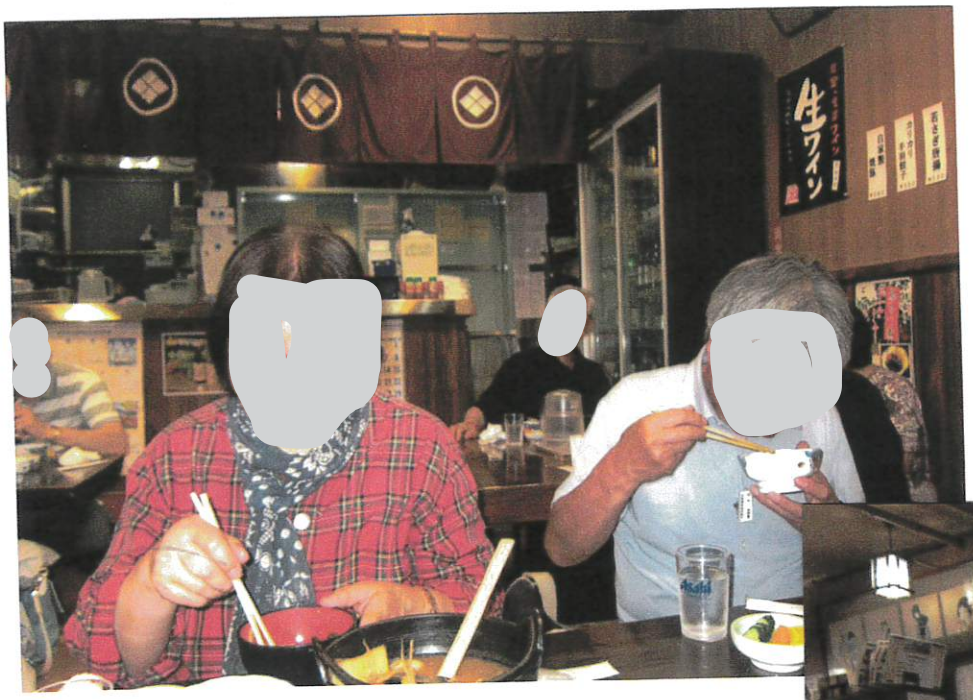
三門をくぐった正面に見えるのが開山堂です。堂内には夢窓国師、快川国師、末宗和尚（しゅうおしょう）の三像が安置されています。
末宗和尚は快川国師の弟子で、信長による焼き討ちの際、快川和尚の命を奉じて三門から飛び降りて火を逃れ、後に徳川家康に命ぜられて恵林寺の再興を成し遂

滅却心頭
安禅不心





食事　小作（ほうとう）



舞鶴城公園

MAIZURUJYO PARK

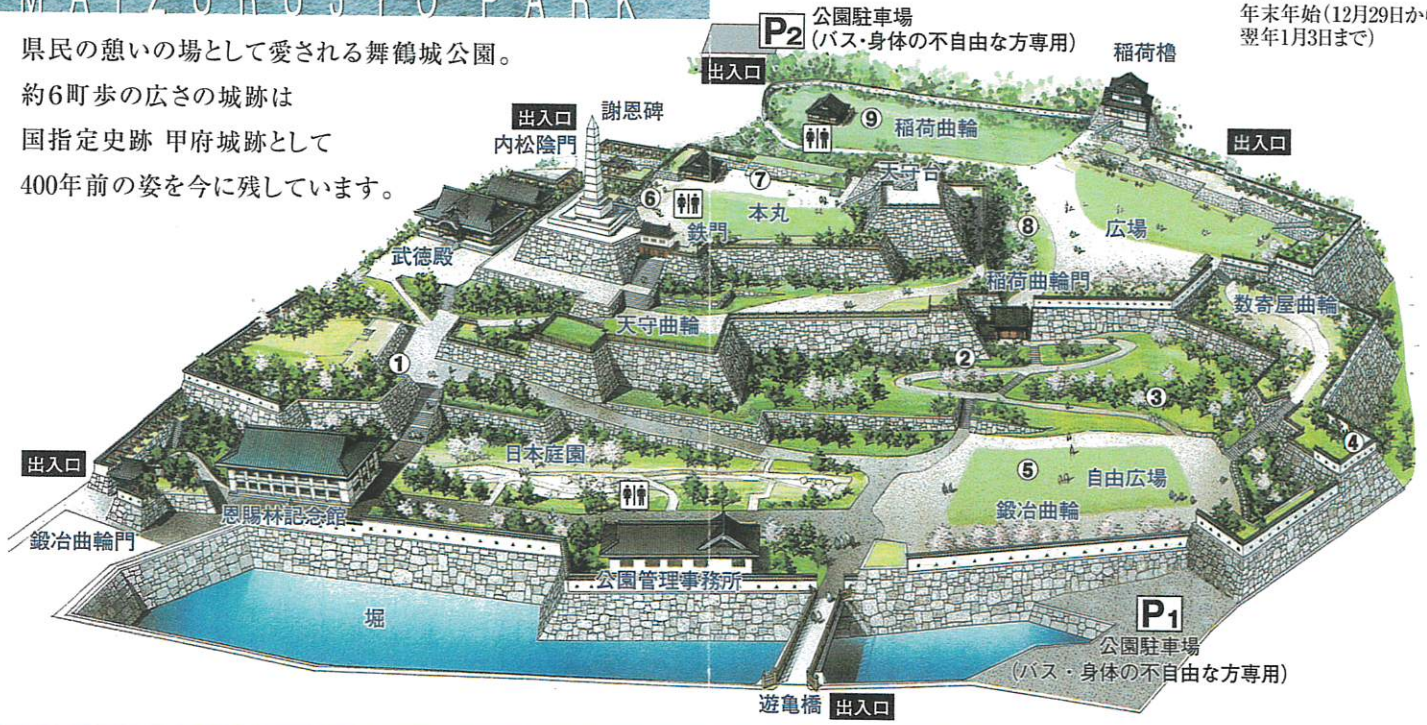
県民の憩いの場として愛される舞鶴城公園。
約6町歩の広さの城跡は
国指定史跡 甲府城跡として
400年前の姿を今に残しています。

公園概要

公園面積　6.5ha
経　　過
昭和37年 5月 供用開始
昭和43年12月 県指定文化財(史跡 甲府城跡)
平成31年 2月 国指定史跡 甲府城跡

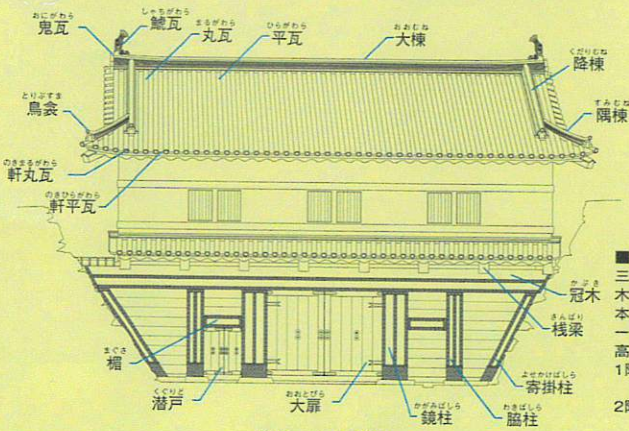
稲荷櫓・鉄門(櫓)

入館料無料
開館時間　午前9時から
午後4時30分まで
※入館は午後4時まで
休 館 日　月曜日(祝日は開館)
祝日の翌日
年末年始(12月29日から翌年1月3日まで)



鉄門(くろがねもん)

鉄門は、本丸の南側に位置する2階建ての櫓門として、明治初年まで存在していたことが歴史史料等から判明しています。史実と伝統工法に基づき復元しました。



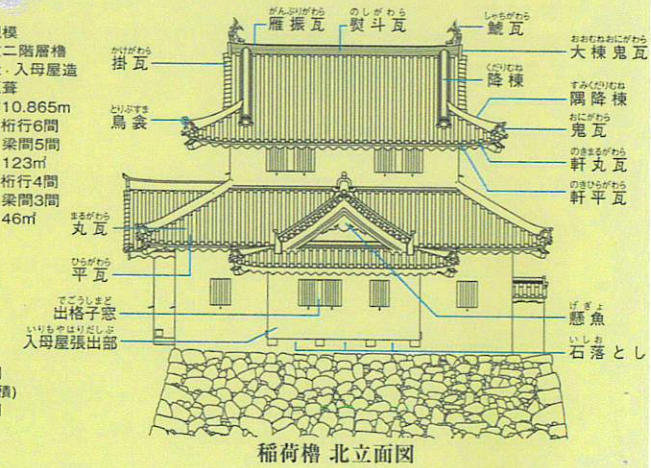
■規模
三間一戸潜戸付渡櫓門
木造　入母屋造
本瓦葺　正背面庇付
一階東側番所付
高さ:9.653m
1階:桁行3間　梁間2間
8.26㎡(番所床面積)
2階:桁行7間　梁間3間
66.93㎡

鉄門 南立面図

稲荷櫓(いなりやぐら)

稲荷櫓の形状や構造は絵図・古文書・古写真・発掘調査成果等を基に検討し、江戸時代初期、寛文4年(1664)の建築当初の姿で建てました。

■規模
二重二階層櫓
木造・入母屋造
本瓦葺
高さ:10.865m
1階:桁行6間
梁間5間
123㎡
2階:桁行4間
梁間3間
46㎡



稲荷櫓 北立面図

公園散策

本丸

内松陰門(うちまつかげもん)

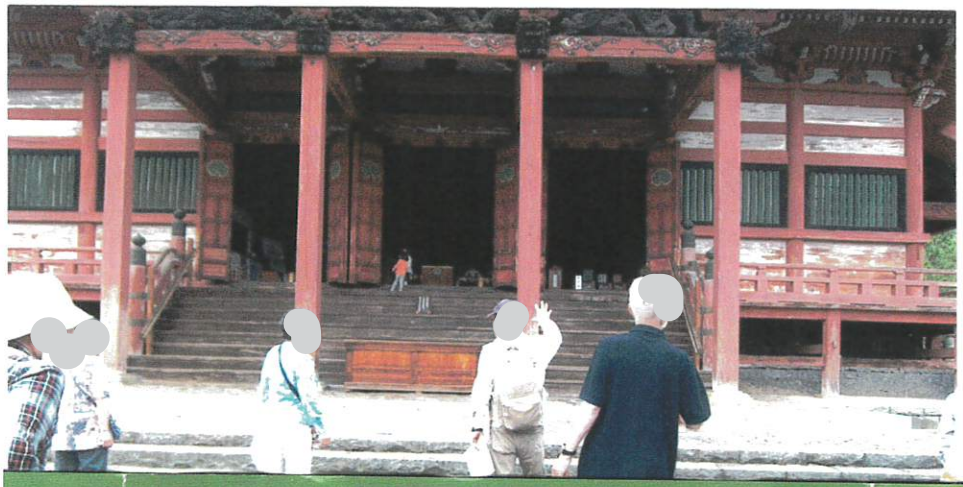
鍛冶曲輪門(かじくるわもん)

鉄門(くろがねもん)

稲荷曲輪門(いなりくるわもん)

たけだじんじゃ
◎武田神社

かいぜんこうじ
◎甲斐善光寺



阿弥陀三尊像

甲斐善光寺の歴史と宝物

当山は、開基武田信玄公が、川中島の合戦の折、信濃善光寺の焼失を恐れ、永禄元年（一五五八）、御本尊善光寺如来像をはじめ、諸仏寺宝類を奉遷したことに始まります。板垣の郷は、善光寺建立の大檀那本田善光公葬送の地と伝えられ、善光寺如来因縁の故地に、開山大本願鏡空上人以下、一山ことごとくお迎えいたしました。その後、武田氏滅亡により、御本尊は織田・徳川・豊臣氏を転々といたしましたが、慶長三年（一五九八）信濃に帰座なさいました。甲府では新たに、前立仏を御本尊と定め、現在に至っております。

江戸時代には、本坊三院十五庵を有する大寺院として**浄土宗甲州触頭**を勤め、**徳川家位牌所**にもなっておりました。豪壮な七堂伽藍は、一度焼失いたしましたが再建され、東日本最大級の伽藍として広く知られております。また、重要文化財五件・県指定文化財四件、市指定文化財八件をはじめとする文化財の宝庫として著名で、その一部は宝物館等で公開しております。

御本尊善光寺如来像

（御開帳仏・重要文化財）

金堂正面厨子安置の、当山の御本尊**阿弥陀三尊像**は、建久六年（一一九五）尾張の僧定尊が、信濃善光寺の前立仏として造立したものです。善光寺の御本尊は、仏教伝来とともに将来された、生身すなわち、実際に生命が宿っている霊像として深く信じられておりました。しかし、絶対の秘仏のため、人々が拝むことはできません。そこで鋳造されたのが、本像であると考えられ、文化史的にもたいへん貴重な存在です。本像は、いわゆる一光三尊式善光寺如来像の中では、在銘最古、かつ例外的に大きな等身像として知られています。平成九年春に、御本尊の八十年振りの御開帳を厳修いたしました。以後は信濃善光寺様と同様、七年目ごとの御開帳を予定しております。

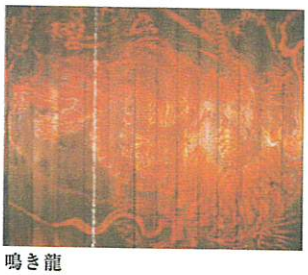
金堂・山門

（重要文化財）

山門

武田信玄公建立の七堂伽藍は、宝暦四年（一七五四）門前の失火により、灰燼に帰してしまいました。現在の金堂・山門は、寛政八年（一七九六）に再建されました。**金堂**は、善光寺建築に特有の撞木造とよばれる形式で建てられています。総高二七m、総奥行四九m。文化財指定木造建築物として、日本でも十指に入る巨大なもので、重層建築の**山門**とともに重要文化財に指定されております。金堂下には、「心」の字をかたどる、珍しい**お戒壇廻り**もあり、鍵を触れることによって、御本尊様と御縁を結んでいただけます。

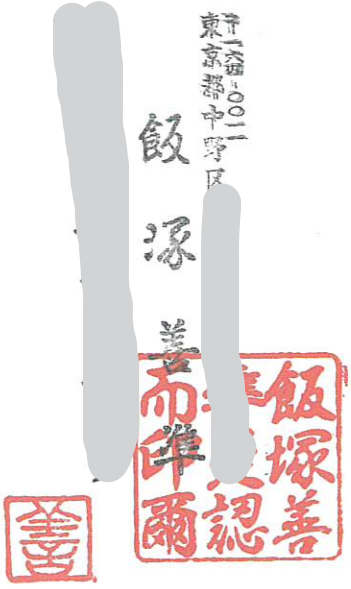
日本一の鳴き龍



鳴き龍

金堂中陣天井には、巨大な龍が二頭描かれています。廊下の部分のみ、吊り天井となっており、手をたたくと多重反響現象による共鳴が起こります。当山の鳴き龍は、日本一の規模を持ち、参拝者に親しまれております。

B


飯塚善
認
而弾爾